丸之内点景

‥‥東京の盛り場を巡る‥‥

小津安二郎

青空文庫

春の夜である。

今、活動がハネたばかりで、人浪は、帝劇から丸之内の一角を通つて、銀座につゞく。

「一寸、つき合へよ、アロハ・オエを一枚買つて行くんだ」

三人連れの海軍青年士官の会話（スポークン・タイトル）。

▽

春の夜の、コンクリートの建物の並んだ、丸之内の裏通りのごみ箱一つ見えない、アスファルトの往来に、ふと、野菜サラダのにほひを感じたと芥川龍之介は書いてゐる。

この通りには、ところどころに西洋料理店はあるし、大方は、地下室が、料理場になつてゐて、ほ道とすれ〳〵に通風窓があるから、野菜サラダだらうが、かきフライであらうが、鼻が悪くない限りごみ箱を連想し、その所在を気にせずとも、それより遙に新鮮なにほひを感じるのは当然である。

当時、このあたりに洋食屋が一軒もなかつたと、好意的に解釈するとして——

今僕の前を行く、これも帝劇の帰りの慶応の学生も、洋食に関して極めて博学を示してゐる。

「日本の海老はラブスターとは、いはないんだね」

春の夜の丸之内の裏通りに、ふと洋食を感じるのは、どうやら春の夜の定式らしい。

▽

相似形的二重露出

曇天の、丸ビルは大きな水さうに似てゐる。

中に、無数の目高が泳いでゐる。

▽

丸ビルは、とても大きい愚鈍な顔をしてゐる。

殊に、夜が明けてから、朝のラッシュ・アワーになる迄の数時間の表情と来ては、早発性痴ほうよだれだ。よだれは敷石をぬらしてゐる。

▽

ドーナツツに穴のある様に、もつと現実的にいつて、便所の防臭剤に穴のある様に、丸ビルの内側にも、通風と採光の穴があいてゐる。

丸ビル、八階——

窓、窓、窓、窓、東向き——

一階、コーヒーを沸してゐる。

二階、女店員とコンパクト。

三階、ポマード頭。

四階、ヨーヨーをしてゐる。

五階、ヨーヨーをしてゐる。これはニウトンの戸惑ひをした表情だ。

六階、丁字形定規が動いてゐる。

七階、空室。

八階、窓硝子をふいてゐる。陸のカンカン虫。

▽

窓、窓、窓、窓、南向き——

一階、飯びつが乾してある。

二階、狸が狐を背負つてゐる。美容院。

三階、タイプライターをたゝいてゐる。
四階、手巾が乾してある。
五階、泣いて文書く人もある。これはうそだ。給仕が靴を磨いてゐる。
六階、盛に、お辞儀の連発だ。あれは借金の言訳をしてゐる。
七階、途端に、サイレンが鳴つた。
午砲のサイレンに変つたのは偶然ではない。これはまだしも空き腹に、応へない。

▽

この界わいの、ビルデングのボイラーたきは大方、らんちうを、その屋上に飼つてゐる。
暖かくなつて、ボイラーの方が暇になると一方は、食ひが立つて急がしくなる。

▽

極めて早朝、この界わいを、神田あたりの店員が、皆ユニホームを着て、皆自転車に乗つて、日比谷あたりに野球の練習に通るのを見かけたことがある。
これは僕の見た都会の情景の中での、好ましいものの一つである。

（「東京朝日新聞」昭和8年4月21日朝刊）

青空文庫情報

底本：「小津安二郎映畫讀本　［東京］そして［家族］」フィルムアート社
　　1993（平成5）年9月25日初版発行
　　1993（平成5）年11月12日第2刷
初出：「東京朝日新聞」
　　1933（昭和8）年4月21日朝刊
※副題は底本では、「・・・東京の盛り場を巡る…」となっています。
入力：sogo
校正：仙酔ゑびす
2014年1月1日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

丸之内点景

‥‥東京の盛り場を巡る‥‥

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　小津安二郎
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/